

# 二〇二五年度 入学試験問題

## 国語

### 第二回

【注 意】

- ・ 試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- ・ 問題は一ページから九ページまでです。
- ・ 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- ・ 字数制限のない問題について、一行分の解答らんに二行以上解答してはいけません。
- ・ 記号・句読点がある場合は字数に含みます。
- ・ 解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

① 次の「文章Ⅰ～Ⅲ」は、いずれも宮坂道夫『対話と承認しやうにんのケアーナラティヴが生み出す世界』の一節で、「文章Ⅰ」「文章Ⅲ」は「ナラティヴ・アプローチ」について論じたものです。また「文章Ⅱ」は「ナラティヴ・アプローチ」について考えるための物語です。これらを読んで後の問いに答えなさい。

【文章Ⅰ】

5

10

15

20

25

30

35

40

45

50

55

★実在論……物事を人間の認識にんしきとは独立して存在するとみなす理論。構築

論と対つひをなす。

★エビデンス・ベイスト・メデイスン

…科学的な根拠こんきよとなるデータたに基づく治療ちりょう。

★構築論…：物事は人間の認識によって存在するとみなす理論。実在論と対をなす。

【文章Ⅱ】

60

65

70

75

80

85

90

95

100

105

110

115

★緩和ケア………生命をおびやかす病気を抱えているが治療が効果

的ではなくなった患者とその家族に対して、痛み  
や不安を軽減し、その後の生活をよりよいもの  
にしていくための支援。

★ナースステーション………病院で看護師が集まって待機している場所。

【文章Ⅲ】

120

125

130

135

140

145

150

155

160

165

170

175

★ロジャーズ……………伝統的なカウンセリングのあり方を批判した臨床心理学者のカール・ロジャーズ（一九〇二～一九八七）。

問一——(1)「ケア者が必然的に行わざるを得ない対話である。」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 医師は患者の身体機能の領域については明らかに患者よりもよく知っているが、患者の疾病がもたらす影響についての一般論は、今日の医療システムの中では浸透し切れてないということ。

イ 医師は専門家として患者の疾病についての知識は持っているものの、患者の生活や人生は当然すべて把握などできないので、患者の語りを丁寧ていねいに聞いて問題を読み取るしかないということ。

ウ 医師は患者の語りを丁寧ていねいに聞き、その内容から患者自身の抱えている問題を読み取っていくのだが、患者の生活機能の領域や人生史についての一般的知識は十分身に付けているということ。

エ 医師は専門的な立場から普通に「問診」を行っているので、患者の語りを丁寧ていねいに聞いて患者自身の悩みを聞きだすことに苦労はなく、むしろ患者の人生のあり方を考えるべきだということ。

★プライマリ・ケア……………患者が地域の開業医や薬剤師などから最初に受ける、総合的な医療。

★紙幅……………執筆の際に割り当てられた原稿の枚数。

★ディープラーニング……………人工知能が自動で大量のデータを解析、特徴を抽出して人間の力を使わずに学習する技術のこと。

★ハイデガー……………ドイツの哲学者マルティン・ハイデガー（一八八九～一九七六）。

★アリストテレス……………古代ギリシアの哲学者（紀元前三八四～紀元前三二二）。

★投企……………哲学用語。人間は常に自己の可能性に向かい、自分の存在を発見、創造していくものだという考え方。

問二——(2)「臨床推論は疾患を理解する実践であり、解釈的ナラティブ・アプローチは病いを理解する実践であると言えるかもしれない。」とありますが、「疾患」と「病い」はどのように違いますか。三行以内で説明しなさい。

問三——(3)「一度もうなずかなかった。」——(4)「患者は小さくうなずいた。」とありますが、はじめはうなずかなかった患者が後ではうなずいたのはなぜですか。【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を踏まえ、医師の言動に注目して四行以内で説明しなさい。

問三——(3)「一度もうなずかなかった。」——(4)「患者は小さくうなずいた。」とありますが、はじめはうなずかなかった患者が後ではうなずいたのはなぜですか。【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を踏まえ、医師の言動に注目して四行以内で説明しなさい。

問三——(3)「一度もうなずかなかった。」——(4)「患者は小さくうなずいた。」とありますが、はじめはうなずかなかった患者が後ではうなずいたのはなぜですか。【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を踏まえ、医師の言動に注目して四行以内で説明しなさい。

問四 【文章Ⅱ】の「a」fの中には、「ナラティヴ・アプローチ」にあたる会話文が含まれています。あてはまるものを二つ選び、記号で答えなさい。

問五 — (5) 「ケアする側とされる側が真に同じ地平に立てるための要件がさらにあるように思うのである。」とありますが、必要な要件としてどのようなことが挙げられますか。【文章Ⅲ】の内容を踏まえ二行以内で説明しなさい。

問六 【文章Ⅲ】は、左の《 》の文が抜けています。《あ》《お》のうち入れるべき最もふさわしい箇所を二つ選び、記号で答えなさい。《つまり、いずれ壊れてしまうロボットのほうに、親近感を感じて、自分の話を聞いてほしいと思うのではないかというのが、この仮説である。》

問七 A D に入れる語として最もふさわしいものを、次のアエの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし同じ記号は二度以上使えません)。  
ア したがって イ これに対して ウ つまり エ しかし

問八 — アーオのカタカナを漢字に直しなさい。

問九 【文章Ⅰ】と【文章Ⅲ】の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ナラティヴ・アプローチの根幹には臨床研究のエビデンスに基づいた医療システムがあるため、論理的な妥当性を欠いてしまう場合に、医師たちは自分の経験に基づいた一般論に流されがちになる。

イ ナラティヴ・アプローチはヘルスケアの中での対話実践として注目されているが、人工知能の発達や弱さそのものが多様化したことよって、ケアされる側にも深い人間理解が求められている。

ウ ナラティヴ・アプローチは病を抱える人をケアする上で重要な方法であるが、英語やドイツ語に用いられる「気づかい」といった概念を基盤としているため、ヘルスケアについては限界がある。

エ ナラティヴ・アプローチは患者に対して医学的な診断を下す「問診」ではなく、構築論の視点に立ち、患者の側から病気を理解しようとする実践であり、現代医療を見直すきっかけの一つになる。

2 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

これまでの主なあらすじ

もうすぐ二十六歳になる社会人の知星は、姉に頼まれて姉の娘の美寧々を一晚預かることになった。美寧々は中学生。知星は可愛い姪っ子と過ごせることは嬉しいが、自分の「恋バナ」を楽しみにしているという美寧々に、どう話したらよいか少し心配であった。知星は無事に美寧々をうちに迎え入れ、友達のように楽しくおしゃべりが続いたが、ついに「恋バナ」をねだられる。そして知星は、美寧々に現在の交際相手である遥矢の話をする。同時に知星はロマンチックなのが嫌だからプロポーズはされたくない、心の内をも語ってしまう。交際相手の遥矢と知星は大学時代に同じフットサルのサークルに所属していた。二人が恋人関係になるのは社会人になってからのことだが、大学二年の頃には、知星はもう遥矢がとても好きで、彼の家まで何度もつけて行ったことがあるくらいだった。

★**義兄**……………姉の夫、「知星」の義理の兄。  
 ★**惚気**……………情におぼれ、いい気になって恋人の話などをするこ  
 と。

(高瀬隼子『新しい恋愛』)

問一

——(1)「ロマンチックが嫌」とありますが、「知星」が「ロマンチックが嫌」と考えるのはなぜですか。その説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 三年も付き合っているにもかかわらず、いまだに現実味のない話ばかりしている相手に対し少し嫌気がさしており、一緒に住んで生活をともにする準備を真剣に進めてほしいと願っているから。

イ プロポーズされるとしたら、何があっても守ってくれる、世界を敵に回したとしても味方でいてくれるといった物語風の言葉ではなく、飾り気のない素直な言葉であるべきだと思っているから。

ウ 相手が好きでたまらなくなつて冷静さを失った過去の自分を改めると同時に、好きという気持ちによって自分を制御できなくなることに對し、現在は自己嫌悪を含んだ不快を感じてしまうから。

エ 働き始めて数年の間に、自分の中のロマンチックが解けていき、相手を好きになる気持ちや自分の制御の外に出してしまう自分自身をようやく受容できるようになり、自然と落ち着いてきたから。

問二

——(2)「感心しながら」とありますが、「知星」は「美寧々」のどういう点に「感心」したのですか。解答らんには合うように、三行以内で説明しなさい。

問三

——(3)「頭を巡らせた」とありますが、本文での意味として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア いろいろと余計な気を回した

イ 決められたやり方に従った

ウ 隠れた気持ちがあらわれ出た

エ あれこれと考えを働かせた

(二)

次のⅠ～Ⅳの「頭」を使った慣用句やことわざなどの、Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ に入るふさわしい言葉を書きなさい。( ) はそれぞれの意味です。Ⅰ はひらがな四字、Ⅱ はひらがな三字、Ⅲ はひらがな二字、Ⅳ はひらがな三字です。

Ⅰ 頭を Ⅰ (どうしたらよいかわからず、困ってしまう)

Ⅱ 頭が Ⅱ (感心させられ、尊敬の気持ちが起こる)

Ⅲ 頭隠して Ⅲ 隠さず (自分では欠点などを隠したつもりだが、まだ一部分が見えていること)

Ⅳ 頭 Ⅳ (わけも聞かないで、いきなり決めつけること)

問四

——(4)「わたしは今子どもに諭されている」とありますが、このとき「知星」はどのような気持ちですか。三行以内で説明しなさい。

問五

——(5)「これが今一番新しい恋愛」とありますが、「美寧々」の考える「今一番新しい恋愛」とはどういうものですか。そうではない恋愛と比べながら、四行以内で説明しなさい。

問六

——(6)「覚悟を決めて美寧々に同意し、冷凍庫からアイスを取り出す。」とありますが、このときの「知星」について説明したものととして最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「美寧々」は学校で教えられたことを素直に呑み込んで正しく行動できていることに感心したが、まだ「人を愛するすばらしさ」が心に浸透しているわけでないために、ひとまずここは結論を先送りした。

イ 「美寧々」の言う「新しい恋愛」のあり方を素直に受け入れることはできないが、将来のある中学生のまっすぐな思いを否定するのは、大人として避けるべきだと考え、あえて本音を語らないようにした。

ウ 「美寧々」の言う、心を開いて好きな人と関係を深めるといふ恋愛の仕方は、長く生きていくと「条件の設定」へと移行することに気づくはずだが、余計な言葉を挟むより会話を円滑に進めようと思った。

エ 「美寧々」は自分より恋愛についての経験があるわけではないが、「今一番新しい」といふ恋愛の仕方を実践しているので、ここは将来のある「美寧々」を尊重する方が、大人として正しい態度だと考えた。

問七

A 〃 D に入れる語として、最もふさわしいものを次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし同じ記号は二度以上使えません。)

- |   |       |   |       |   |       |
|---|-------|---|-------|---|-------|
| ア | いじいじと | イ | ぎっしりと | ウ | きっぱりと |
| エ | ビクツと  | オ | ぐっすり  | カ | こそっと  |
| キ | たっぷりと | ク | カラツと  | ケ | ぼかんと  |
| コ | ピリツと  | サ | ぺこりと  | シ | ふつくらと |
| ス | ぞくつと  | セ | ぱつと   | ソ | こつてりと |
| タ | くすつと  |   |       |   |       |

問八

本文の内容に合うものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「知星」は「美寧々」に一通りの恋愛話をしたあと、改めて「美寧々」の恋愛に対する学びの深さに感心し、これからは「新しい恋愛」のあり方が人々の間にもっと浸透すべきだと強く感じた。

イ 「知星」は「美寧々」と恋愛話をしていく中で、姉と義兄のプロポーズの言葉がどんなだったかなんて考えたこともなかったことに気づき、深くため息をついたあと、少し羨ましいとも思った。

ウ 「知星」は「美寧々」と恋愛話をする中で、自分の感覚との違いを感じることも、恋愛は明るく語り合うべきだという「美寧々」の誇らしい様子に感動し、改めて恋愛を学び直そうと思った。

エ 「知星」は「美寧々」に恋愛話をしたが、人を好きになることで溢れ出る思いを制御するのが苦手だった自分自身を思い知るとともに、恋愛について自由に語れる「美寧々」との隔たりをも感じた。



